

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200054		
法人名	社会福祉法人さゆり会		
事業所名	グループホーム大浜	ユニット名	
所在地	長崎県五島市浜町142-1		
自己評価作成日	平成26年4月10日	評価結果市町村受理日	平成26年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年6月11日	評価確定日	平成26年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外出支援や地域とのつながり・交流や出来る事を見つけ手伝って頂くことで生き生きと暮らして欲しい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム大浜では、ご利用者から「ここは私の家」と言う言葉が聞かれ、ホームの主(あるじ)として、日々の中で戸締り等もして下さっている。ご利用者同士の喜怒哀楽が交差する時間もあり、職員はお互いの関係性を考慮しながら、座席の工夫や気分転換に努めている。ご利用者も運営推進会議に参加されており、「自分で出来る事は何でもしようと思っています」などの発言もして下さっている。地域との交流も続けられ、大浜地区の敬老会や運動会、大浜小の学習発表会やお大師様参りなど、地域行事には積極的に参加されている。地域の一人暮らしの方達に、お弁当を届ける支援も続けられ、その方達からつわを頂き、ご利用者が皮むきをして下さっている。小学校の校長先生がホームでアコーディオンを弾いて下さったり、校長先生の奥様が消防訓練に参加して下さるなど、更なる交流が深まっている。26年度からは職員個々の役割分担も始めており、今後も更に職員のお力を引き出していく予定にしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている。(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護の理念の唱和を継続して、共有と実践に繋げていく。	母体法人さゆり会の経営理念には、「我々は指導者ではなく、利用者と共に歩む支援者でありたい」なども盛り込まれ、26年5月からホームの理念と一緒に唱和している。馴染みの職員が多く、入居者の生活パターンや要望、日々の意思決定を大切にしたいケアが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、各種行事には積極的に参加している。ホームの行事にも地域の方々の参加を呼びかけている。小学生との交流も定期的に行っている。	小学校と町内合同の運動会では、ご利用者も“宝探し”に参加し、「頑張れ～」と大きな声で声援を送られている。学習発表会では模擬店での買物を楽しんでいた。町内会長の依頼もあり、敬老会で披露した職員の出し物を地区の敬老会でも披露する事ができ、ご利用者も参加し、楽しいひと時を過ごされた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に話題となり、支援の方法や理解に努めている。個別の相談には積極的に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況やヒヤリハット事例など報告し、高齢になる事でこれまで見られなかった事例が多くなっているため、これまで以上に目配りが必要になっている事を話し合う。	家族交流の在り方や職員の育成に関する情報交換も行われ、いつもホームの事を考えての意見を頂く事ができている。26年度からは、地域代表として前理事長も参加して下さり、職員も心強く思っている。今後も曜日の検討を行うと共に、早めに日程のご案内を行う予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要な時気軽に相談・話し合いができる関係ができている。	管理者が市の窓口を訪問し、運営推進会議の案内や議事録を届けている、ホームの状況を報告し、市の担当者とは相談しやすい関係ができている。運営推進会議で質問した内容も、その都度回答して下さり、内容によっては、後日、お返事を下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないを法人是としているが、現在は該当者がいない。	職員は母体施設で行われる身体拘束等の研修を受講し、毎月の会議で振り返りを行っている。症状の変化を丁寧に観察し、内服に関しても医師との連携に努め、「ご本人が一番辛い」という思いを大切に、個別の関わりが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、虐待防止について学んでいる。ヒヤリハット記入や虐待ととられるような事をしないように心がけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している利用者は1名おられる。必要と思われる方には制度を積極的に紹介したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、まず管理者が行い、理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には毎日のケアを通じて、ご家族には面会時意見や要望を伺うようにしている。ご家族には、請求書発送時近況報告をしている。	毎月のお便りにも写真を沢山載せており、面会時には家族との会話を心がけている。前回の外部評価以降、家族の方に“家族交流会”に関するアンケートも行われ、ご本人の家族への想いも報告しながら、家族との関係を繋ぐ役割を続けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングでは、全員発言する事を約束としている。運営に関することも自由に提案されるので、実践できることは即反映している。	職員が意見を言いやすい環境が作られている。職員の意見はすぐに取り入れ、ミーティングで話し合いが行われている。26年度からは、個々の職員に役割を持って頂く取り組みも始められ、職員間で得意な分野を活かしながら、前向きに取り組む姿勢が見られた。	勤務表作りや消耗品の確認など、職員個々に役割を持って頂き、日々の業務の中で頑張ってもらっている。今後は更に、各業務内容の共有ができるように、マニュアル作りも始めていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一昨年の12月のボーナスから人事考課制度が導入されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は、全職員平等に与えている。若い職員には、資格取得を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域協議会主催の研修会・事例検討会に参加。町内3GHとの交流会の開催、系列の3GHの合同会議などに参加している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員はできるだけ本人に寄り添い、じっくり話し合える時間を作り、困っている事・不安・要望などを受け止め、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と職員は、家族とゆっくり話し合う機会を作り、困っている事・不安・要望などを受け止め、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談者は、在宅サービスを利用されている方がほとんどである。入所を待機されている方には、他のサービスや施設の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の力を見極めながら職員と一緒にできる事をしていただき、一つ一つの行為に感謝の言葉かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活・、特に楽しかったこと・喜ばれたことを中心に手紙・写真・ホーム便りなどで情報交換を密に行い、家族の絆を大切にしながら共に支えていくケアに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会・運動会・お大師様参り・墓参りなどに参加している。キリスト教の方は毎月第1金曜日に神父様の訪問がある。	地域行事の参加と共に、大浜にある3つのホームとの合同レクリエーションにも参加し、知り合いの方との交流をされている。季節の花見でドライブをしながら、「ここ知ってる」などの言葉も聞かれ、馴染みの場所を教えて頂いている。信仰も大切に続けられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係を把握し、食堂の座席・レクなどの位置・ドライブ時の座席など利用者同志の関わりを把握している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了は、入院か死亡である。必要な方には支援を心がけている。亡くなられた方の初盆には必ずお参りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者には職員全員で関わるが、特に担当者はより密接に関わり、本人の思いや希望・意向の把握に努めている。	ご利用者の意思決定を大切にされている。ご利用者に寄り添い、日々の会話や行動を共にする事で、思いや希望を把握するように努めている。意思疎通が難しい方には、表情やしぐさでお気持ちを察するようにしており、家族にも報告し、適宜、情報交換が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・友人・知人・ケアマネージャーなどできるだけ詳細な情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族からの情報にプラスして毎日の生活を細かく観察しながら心身の状態や有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人・家族の意見を聞きながら職員全員で意見を出し合い、計画作成担当者が中心になって介護計画を作成している。	入居時にセンター方式を記入し、ご本人の生活歴や趣味、信仰なども含めて把握されている。独自のアセスメントも活用し、ご本人と家族から要望を伺っている。計画には洗濯物たたみや下ごしらえ、ドライブや地域行事などの楽しみや役割も盛り込まれている。	ご本人の認知力の変化と共に、家族への思いや心配も詳細に把握されている。今後も引き続き、ご本人の願いを叶えるための方法を検討すると共に、理学療法士等の協力も頂きながら、ご本人のできる所を引き出していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容や日々の様子・気づき等は個別記録に記入し、情報の共有・ケアの実践や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスの機能をほぼ全員が利用。個々のニーズに対して柔軟に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会・小学生・友人・知人・ボランティア等の協力を得ながら豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医には定期的に受診し、協力医には月1回往診していただいている。受診には必ず職員が同行し、情報提供している。気軽に相談・協力が得られる関係ができています。	体調が変化した時は主治医や訪問看護師がホームに来て下さっている。受診時はバイタルチェック表や排泄状況・体重・食事状況等の記録を主治医に見て頂き、適宜アドバイスを頂いている。今後も、症状の微妙な変化も記録に残し、主治医に報告していく予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職の連携は密に取れている。介護職は利用者の異常はすぐに看護職に報告・指導を受けている。夜間は電話で情報交換している。訪問看護と委託契約し、週1回訪問していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院すると面会に行く。主治医担当ナースと常に情報交換を行い、早期退院に向け働きかけをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、早い段階から本人・家族の意見を聞いている。3ヶ月ごとのモニタリング時にも再確認し、主治医・看護師等と支援方針を共有している。これからもご希望の方には、ホームで看取りさせていただく予定である。	新体制後は看取りケアの経験はないが、前回の外部評価以降、看取りケアに関する職員の内部研修が続けられている。職員個々に「生と死」を学ぶ機会になっており、いつも通りのケアを誠心誠意行う事の再確認も行われた。「ここで最期まで・・・」「ここがよかよ」と言われるご利用者が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について訓練や研修を行っている。全職員が経験している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を実施している。周辺住民の方にも協力をお願いしている。職員全員が災害時冷静に対応できるように訓練を継続していく予定である。	25年11月には、消防署や地域住民の方も一緒に総合訓練が行われた。消防団は地域の3つのホームを、1年に1か所の割合で訓練に参加されており、26年度は大浜に参加して頂く予定である。3つのホームも協力し合い、お互いの訓練に参加するようにしている。災害時に備え、食料や水などを用意しており、母体施設との連携も行われている	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーは充分配慮しながら言葉かけ・ケアを行っているが、慣れ合いにならないように努めている。気づいた時に注意しあい、挨拶・言葉かけなど接遇の徹底に目標を掲げ実践に努めている。	行動の背景にも目を向け、ご本人のペースに応じた関わりを大切にしている。排泄時は転倒しないように注意し、ご本人のプライバシーを尊重するためにトイレの入口を見えない程度に閉めている。大きい声での排泄の声かけや確認をしないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つのケアの度に声かけ、説明をして本人の思いや希望を聞き、ご自分で決めていただけるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格・体調・望みなど利用者のペースを大事にしながら、日々楽しく過ごしていただける支援をしている。自分の部屋の掃除機がけ・拭き掃除・自分の洗濯物干しなどの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服は本人に選んで頂く。外出や行事の時は希望を伺いながら準備し、化粧など整容に配慮している。季節はずれの服装をしている時はさりげなく声かけ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のできる事を探し、料理の下準備・味見・盛り付け・片付けなどを一緒にする事で食事を楽しんでいただく。	盛り付けには季節の花や葉をあしらっている。ツワの皮むきや、もやしの根取り等も上手にして下さり、下膳も手伝って下さる。美味しいお刺身なども楽しまれ、ホームの畑で収穫した茄子や大根、オクラ、そら豆等を使い、季節の料理が作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは系列の栄養士に定期的にチェックをお願いしている。食事の摂取量・水分量は記録し不足しないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清掃・うがいを実施。本人の能力に応じて義歯の取り外し・装着などをしていただいている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。夜間もできるだけポータブルトイレやトイレ誘導し、オムツ減らしに努めている。	布の下着を使用し、車いすを自走してトイレに行かれる方も多い。トイレで鈴を鳴らして下さり、職員が必要時の介助をしている。布おむつ(＋パット)の方も適宜ポータブル等での排泄が行われ、下肢筋力アップで立位が取れるように努めており、毎朝の陰部清拭も続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況をチェックしている。飲食物・運動・マッサージなどに配慮しているが、便秘が続く方には下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の午後、入浴日としているが、ゆっくりと時間をかけて入りたいという利用者の希望に沿っている。年1回は隣町の温泉センターを利用している。	お風呂好きな方が多く、「1人で入浴したい」と言う方は、職員がドアの外で見守りをしている。好みの湯温や入浴時間も伺い、洗身後に「少し熱めの湯をかけて欲しい」という方にも要望に応じている。入浴時は昔話を楽しまれ、ホームの庭などで採取したヨモギやバラの花も浮かべている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望を聞きながら就寝援助している。安心して気持ちよく休息・安眠が出来る様に本人の希望で雨戸を閉めるなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の内容を理解しており、正しい服薬支援をしている。名前と薬剤の確認・確実に服用したことを見とどけ、症状の変化にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の力を活かした役割・楽しみごとを探して張り合いや喜びのある生活ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿って外出支援している。散歩やドライブ・買物などできるだけ外出の機会を作るよう努めている。地域の行事・敬老会・小学校運動会・お大師様参り・花祭り・バラモンキングの応援などにも出かけている。	ホームの畑で草取りをされる方もおられ、玄関の前に出て、皆さんで体操をされている。大宝寺の千日祭にも参加し、無病息災を願われており、車いす利用の方も富江温泉、荒川温泉の足湯等にも行かれている。5月の鬼岳での“たこあげ”見学では、竹の音も懐かしく、季節を感じる外出となっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つ事の大切さを理解している。お金を所持している人は現在3名。受診後、本人の希望で買物にお連れする場合や初詣ではお賽銭を自分で出す人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけたり受けたり出来る。困難な方にはそばに寄り添って援助する。請求書送付時には近況報告もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は不快な音や光・匂いなどがしないように配慮し、季節の花や置物・壁掛けなど居心地よく過ごせるように配慮している。夏にはすだれをしたり、遮光フィルムを貼ったり、気の合わない利用者同志はテーブルの配置を替えたりする時もある。	リビングで過ごされる方が多く、台所のお料理の音や香りを感じながら過ごされている。畳の間では洗濯物をたたまれたり、毎日のレクも行われ、長い廊下を足首に砂袋を付けて歩行訓練している方もおられる。廊下の椅子に座り、日向ぼっこをされる方もおられ、思い思いの場所で過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ・和室・廊下の見晴らしのいい場所など仲間同士や一人でくつろげる場を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやテレビ等使い慣れた物を持ってきていただいている。置き場所も本人・家族と相談している。	畳とフローリングの部屋があり、窓からの日差しはグリーンカーテン等を利用している。ご本人が作られた“ちぎり絵”や家族の写真、好きな演歌歌手の写真なども貼られ、マリア様も飾られている。娘さんが大きなぬいぐるみを買ってこられ、ベッドに置かれている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっている。廊下・トイレ・風呂場には手すりが付いている。室内に段差はない。利用者が安全でできるだけ自立した生活ができるように配慮している。		